

## 日本語教育小委員会におけるヒアリング内容の概要について

(第53回及び第54回日本語教育小委員会におけるヒアリング資料を基に作成。H25. 7. 26現在。)

	西川茂氏(岡山県総社市)	各務眞弓氏(特定非営利活動法人可児市国際交流協会)	藤井美香氏(公益財団法人横浜市国際交流協会)	石山公亮氏(山形市国際交流協会)	大泉貴広氏(公益財団法人宮城県国際化協会)	土井佳彦氏(特定非営利活動法人多文化リソースセンター東海)
論点1 日本語教育に関する政策のビジョンについて	<p>■外国人の状況及びニーズ</p> <p>○日本語は話せても読めない人が多い。</p> <p>○今後、高齢化の進展を予測。</p> <p>■指導者等の状況、対応等</p> <p>○日本語教室を日本人・外国人住民がつながる場とし、交流を通して、日本語習得とコミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>○外国人が積極的に地域社会の一員として参加できる多文化共生のまちづくりを目指す。</p> <p>○日本語教室が外国人住民の自立と社会参加を支援する基盤システムとしての役割を果たす。</p> <p>■検討事項</p>	<p>■外国人の状況及びニーズ</p> <p>■指導者等の状況、対応等</p> <p>○地域に暮らす外国人が広くだれでも参加できる日本語教室を実施し、行動や情報の収集が自由にできるように支援していく。</p> <p>■検討事項</p>	<p>■外国人の状況及びニーズ</p> <p>■指導者等の状況、対応等</p> <p>■検討事項</p> <p>○日本語教育が必要な学習者像をどのようにして描くか。(市域が広く、外国人も多様。教室に来ない(来られない)人について、どうやって把握するか。専門家による言語保障としての日本語教室ができた場合、担い手や内容はどうか。また、横浜市の規模で実施できるのか。)</p> <p>○公的や役割を持つ日本語教室と地域の日本語学習支援システムのあり方について検討が必要。</p>	<p>■外国人の状況及びニーズ</p> <p>○学習者が減少。</p> <p>■指導者等の状況、対応等</p> <p>○日本語を専門とする職員がおらず、学習スキル面で踏み込んだビジョンが描けない。</p> <p>○学習者の減少にどのように対応するか。</p> <p>○受容やニーズの変化、費用対効果の精査により、事業の優先順位の低下や実施しないという選択肢があり得る。</p> <p>■検討事項</p>	<p>■外国人の状況及びニーズ</p> <p>○外国人が少なく、さらに散在しているため顕在化しにくい。</p> <p>■指導者等の状況、対応等</p> <p>○外国人が少ないため、日本語教育が社会的課題として認識されにくく、行政の中での優先順位が低い。</p> <p>■検討事項</p>	<p>■外国人の状況及びニーズ</p> <p>○外国人に対して日本語教育は必要と考える国民は多いと言える。</p> <p>○学習者のニーズは非常に多様である。</p> <p>■指導者等の状況、対応等</p> <p>○愛知県が平成25年度に「あいち地域日本語教育指針」(仮)を策定予定。</p> <p>○多様な外国人に対する日本語教育は必須の内容と選択する内容を分けて展開することが適当ではないか。</p> <p>■検討事項</p> <p>○日本語能力により解決される社会課題を示すことが必要ではないか。</p> <p>○日本語教育を推進しなかった場合にかかるコスト(通訳・翻訳費等)や社会的影響(職場・隣人との意思疎通、社会参加)の検証が必要。</p>
論点2 日本語教育の効果的・効率的な推進体制について	<p>■外国人の状況及びニーズ</p> <p>○就労者や小さな子供がいる外国人がいる。</p> <p>■指導者等の状況、対応等</p> <p>○日曜午前に無料の託児(NPO法人に委託)付きの教室を実施。</p> <p>○文化庁委託は官学連携が容易かつ情報収集・発信・人的交流がスムーズ。</p> <p>○委託・単年度の事業は安定的・継続的な教室運営・人材育成が困難。</p> <p>○近隣地域との相互連携の強化、地域間ネットワークの形成が重要。</p> <p>○人事異動は安定的な事業運営に困難を伴うが、コーディネーターの配置により解決可。</p> <p>■検討事項</p>	<p>■外国人の状況及びニーズ</p> <p>○多様なセクターにおいて日本語を学習する機会が求められている。</p> <p>■指導者等の状況、対応等</p> <p>○協会以外にNPOやJICEが日本語教室を実施しているほか、企業内でも日本語教室を実施。</p> <p>■検討事項</p> <p>○多様なセクターにおいて日本語が求められているが、就労条件により日本語学習を希望していても、実際に学習できたりできなかつたりする。習得の義務化もしくは、学習する権利の保障が必要ではないか。(政府全体での議論が必要。)</p>	<p>■外国人の状況及びニーズ</p> <p>○地域日本語教室は外国人が生活相談をし、情報を入手する拠点となっている。</p> <p>■指導者等の状況、対応等</p> <p>○支援者について、必要なときに立ち寄り、相談もできる拠点(リソースセンター等)が必要。</p> <p>○地域の日本語教室に対して、その教室が無理なく持続的に活動が続けられるような支援が必要。</p> <p>○個々の日本語教室が孤立せず、相互の関係、それぞれの特徴やミッションを語れるようになることが理想ではないか。</p> <p>■検討事項</p>	<p>■外国人の状況及びニーズ</p> <p>○山形市以外の市町村から通う学習者がいる。</p> <p>■指導者等の状況、対応等</p> <p>○協会事業は対象者への支援と同時に民間団体活動を育成し、支援しなければならぬと考えている。</p> <p>■検討事項</p> <p>○事業の棲み分け、情報や活動方法の共有、連携する全ての団体の満足感、達成感が重要。</p> <p>○市外からも学習者が来るが、それぞれの市町村が対応できるようにしていかなければならないのではないかと。</p>	<p>■外国人の状況及びニーズ</p> <p>○日本語教室が開設されていない地域があり、学ぶ機会が限定的。</p> <p>○公共交通機関が限られており、教室に通うのが困難な学習者が多い。孤立の可能性はある。</p> <p>■指導者等の状況、対応等</p> <p>○教室によっては送迎や教室の時間を工夫している</p> <p>○それぞれの日本語教育機関が多言語相談対応機関(国際交流協会)や地元行政の各窓口と連携することが必要。</p> <p>○県が日本語教室未設置の地域や支援者不足の地域で養成講座を実施、市町村日本語教育アドバイザーを派遣、相談対応などを実施。</p> <p>■検討事項</p>	<p>■外国人の状況及びニーズ</p> <p>■指導者等の状況、対応等</p> <p>○NEWS等の各種コンテンツの情報について発信が必要。</p> <p>■検討事項</p> <p>○効果・効率について検討するためには、効果については目的と評価指標、効率については基準となる時間やコストの明示が必要。</p>
論点1 日本語教育の標準や日本語能力の判定基準について(標準について)	<p>■外国人の状況及びニーズ</p> <p>■指導者等の状況、対応等</p> <p>○日本語教室は日本人住民と外国人住民がつながる場であり、日本人は生活支援の一環として日本語学習をサポートし、学習教材は地域情報を盛り込んだ情報提供ツールの役割も果たしている。</p> <p>■検討事項</p>	<p>■外国人の状況及びニーズ</p> <p>■指導者等の状況、対応等</p> <p>○トピックを中心としたプログラムを講師が中心となって組み立てている。入門、初級に加え、ステップアップを望む外国人のため、多様なレベル・内容の日本語教室を設置し、日本語コーディネーターが全体を調整</p> <p>■検討事項</p>	<p>■外国人の状況及びニーズ</p> <p>■指導者等の状況、対応等</p> <p>○学習内容は行動目標を具体的に設定し、実生活につながるようにしている。</p> <p>■検討事項</p>	<p>■外国人の状況及びニーズ</p> <p>○高齢や家庭で勉強できない環境の人は学習が不十分になるため、フォローが必要。</p> <p>■指導者等の状況、対応等</p> <p>○多様なレベルにはマンツーマン指導が有効であると思われるが、現状の体制では難しい。</p> <p>○学習者に対するフォローについて指導者や通訳の間で役割分担が必要。</p> <p>■検討事項</p>	<p>■外国人の状況及びニーズ</p> <p>○日本語教室は学習者にとって家族以外の社会とのつながりを得る貴重な場。言葉を学び、情報を得て、様々なネットワークを構築し、その地域で自立した生活を営むための「基礎体力」を養う場。</p> <p>■指導者等の状況、対応等</p> <p>○市販教材の使用がほとんど。</p> <p>■検討事項</p>	<p>■外国人の状況及びニーズ</p> <p>■指導者等の状況、対応等</p> <p>○個々の現場で作成される基準は現場を超えて共有されることは稀であるため、全国的な基準が必要ではないか。</p> <p>■検討事項</p>

	西川茂氏(岡山県総社市)	各務真弓氏(特定非営利活動法人可児市国際交流協会)	藤井美香氏(公益財団法人横浜市国際交流協会)	石山公亮氏(山形市国際交流協会)	大泉資広氏(公益財団法人宮城県国際化協会)	土井佳彦氏(特定非営利活動法人多文化リソースセンター東海)
<p>論点3-2 日本語教育の標準や日本語能力の判定基準について(判定基準について)</p>	<p>■外国人の状況及びニーズ ○継続的な参加が困難な学習者が多く、能力評価が活用できるレベルまで日本語能力が上がらない。</p> <p>■指導者等の状況、対応等 ○日本語教室が地域住民同士がつながる場となり、外国人住民が地域社会の一員として参加できるような街づくりを目指している。</p> <p>■検討事項 ○指導力評価に外国人住民が地域社会の一員として参加できるような街づくりの観点を加えられないか。</p>	<p>■外国人の状況及びニーズ ○地域によっては仕事を探す際に日本語能力試験のN1, N2が求められたりする。ただし、同じようにN1, N2を持っていても、その学習者の背景(漢字圏かどうか、日本語学習経験はどうか)によって会話や読み書きの能力は異なる。</p> <p>■指導者等の状況、対応等</p> <p>■検討事項</p>	<p>■外国人の状況及びニーズ ○学習者の中には日本語能力試験に関心を持つ者もいる。</p> <p>■指導者等の状況、対応等 ○能力評価は作文など活動した内容の積み重ねにより達成度を確認している。</p> <p>■検討事項</p>	<p>■外国人の状況及びニーズ ○日本語の習得が最優先であるとは限らず、仕事が決まれば途中で辞める人も多い。 ○大部分の人が初級が終わった時点で教室をやめてしまう。 ○高度な日本語能力がなくても仕事があるため、資格としての日本語習得は余り意味がない。継続して日本語を勉強することの意義は伝わりにくい。</p> <p>■指導者等の状況、対応等</p> <p>■検討事項</p>	<p>■外国人の状況及びニーズ</p> <p>■指導者等の状況、対応等</p> <p>■検討事項</p>	<p>■外国人の状況及びニーズ</p> <p>■指導者等の状況、対応等 ○能力評価において、ばらつきの発生はやむを得ない部分があり、ばらつきを押さえるのであれば測定部分を限定せざるを得ない。 ○CEFRについては日本が複言語・複文化主義ではないので、飽くまで物差しの一つとして参考にする程度がよいのではないか。</p> <p>■検討事項</p>
<p>論点4 カリキュラム案等の活用について</p>	<p>■外国人の状況及びニーズ</p> <p>■指導者等の状況、対応等 ○多くのボランティアや日本語教師、自治体職員には難解。 ○文化庁事業について広く知ってもらい、理解が深まることによって成果が活用されるのではないか。</p> <p>■検討事項</p>	<p>■外国人の状況及びニーズ</p> <p>■指導者等の状況、対応等 ○活用してもらうためには勉強会などが必要。</p> <p>■検討事項</p>	<p>■外国人の状況及びニーズ</p> <p>■指導者等の状況、対応等 ○地域の教室での実践例は少ない。研修会、訪問相談等で専門家が考え方や活用方法を説明している。</p> <p>■検討事項</p>	<p>■外国人の状況及びニーズ ○生活の知識や文法に沿った日本語ではない会話を重要と思わない学習者も多い。 ○生活講座では10場面を用意。必ずしも全部を必要としない人も多く、途中でやめる人もいる。</p> <p>■指導者等の状況、対応等 ○生活講座の支援者は文法を指導できるようになることの必要性を感じており、検討中。</p> <p>■検討事項</p>	<p>■外国人の状況及びニーズ</p> <p>■指導者等の状況、対応等 ○存在や活用法についての理解が進んでいないと思われ、カリキュラム案等を活用しているところは県内で1教室に留まると思われる。</p> <p>■検討事項</p>	<p>■外国人の状況及びニーズ</p> <p>■指導者等の状況、対応等 ○カリキュラム案等を参考にした教材等の一覧を作成するなど、活用しやすくすべき。 ○カリキュラム案の存在を知らない。 ○教室の形態の変更は困難である。 ○活用方法を教えられる人が少ない。 ○複数年度のモデル事業かつ日本語コーディネーターによるフォローが必要。</p> <p>■検討事項</p>
<p>論点5 日本語教育の資格について</p>	<p>■外国人の状況及びニーズ</p> <p>■指導者等の状況、対応等 ○有資格者によるローテーション体制により実施。総社市の事業に対する理解、チームワーク、円滑な教室運営に対する協力的な態度などの人間性も重視。 ○人選、人材確保はコーディネーターが中心となって実施。</p> <p>■検討事項</p>	<p>■外国人の状況及びニーズ</p> <p>■指導者等の状況、対応等 ○日本語教師とサポーターとで条件を分けている。ただし、協会の事業を知らずに活動に参加し、支障を来すこともあるので協会主催の養成講座で事業について知ってもらうことが必要。</p> <p>■検討事項</p>	<p>■外国人の状況及びニーズ</p> <p>■指導者等の状況、対応等</p> <p>■検討事項 ○日本語教育有資格者をどう捉えるか。 ○日本語指導に関して一定の知識を持った上で地域日本語学習支援の意義を理解している人が必要か。 ○日本語教室には様々な立場の人が関わることが良いが、立場の分け方と役割をどう考えるか。 ○ポジションに見合った待遇の在り方はどういったものか。</p>	<p>■外国人の状況及びニーズ</p> <p>■指導者等の状況、対応等 ○生活講座はボランティアレベルであるため、意識の統一は困難であり、取組の意識の違いが出る。 ○各日本語教室における講師像は各団体の考えによるところが大きく、団体間で考えや意見の一致は困難。</p> <p>■検討事項</p>	<p>■外国人の状況及びニーズ</p> <p>■指導者等の状況、対応等 ○宮城県が実施している教室では、日本語教育能力検定試験合格者または420時間の日本語講師養成講座の修了者等でクラス形式の教授経験を有する人が担当。 ○日本語指導者のほかに全体の調整や指導を行う者がコースデザインや他講師への指導等を担当。 ○新たに講師を募集する際には、教案と模擬授業を基に選考。</p> <p>■検討事項</p>	<p>■外国人の状況及びニーズ</p> <p>■指導者等の状況、対応等 ○基礎だけではなく、分野の細分化とそれに応じた資格・認定が必要。ボランティアが担っているのは質の保証ではなく、機会の提供であり、ボランティアの捉え方は地域や教室によっても差が大きい。最優先すべきは学習者及び地域社会のニーズであり、資格については専門分野については既存の資格がないため民業圧迫とならない。</p> <p>■検討事項</p>
<p>論点6 日本語教員の養成・研修について</p>	<p>■外国人の状況及びニーズ</p> <p>■指導者等の状況、対応等 ○外国人住民を隣人としてサポートする地域人材を育成する。 ○養成講座を受けた市民が日本語学習ボランティアとして補助的存在として参加。 ○ボランティアが自立的活動には、十分な時間と人材の蓄積、養成するための場と財政の継続的確保が不可欠。</p> <p>■検討事項</p>	<p>■外国人の状況及びニーズ</p> <p>■指導者等の状況、対応等 ○以前は日本語教師養成講座(420時間)等を参考としたプログラムを実施。 ○日本語教師を養成する機関ではないこと、ボランティア活動には不必要な部分もあると思われたため、内容を改善し、地域の日本語教育支援者として何が必要かを一緒に考える講座を実施してきている。</p> <p>■検討事項</p>	<p>■外国人の状況及びニーズ</p> <p>■指導者等の状況、対応等</p> <p>■検討事項</p>	<p>■外国人の状況及びニーズ</p> <p>■指導者等の状況、対応等 ○計画的ではない講師・ボランティアの養成は学習者の減少と合わせ、需要と供給のバランスを崩してしまう。 ○現状、バランスが取れていない部分もあり、そういった人への活動の場の提供も課題である。</p> <p>■検討事項</p>	<p>■外国人の状況及びニーズ</p> <p>■指導者等の状況、対応等</p> <p>■検討事項</p>	<p>■外国人の状況及びニーズ</p> <p>■指導者等の状況、対応等 ○現行の養成の枠組みが学校現場を想定していることが多いが、地域日本語教育に特化した人材育成プログラムや、教員養成課程においても地域日本語教育に関する知識・経験の充実を期待。 ○現時点では方向性が定まっていない。</p> <p>■検討事項</p>

	西川茂氏(岡山県総社市)	各務眞弓氏(特定非営利活動法人可児市国際交流協会)	藤井美香氏(公益財団法人横浜市国際交流協会)	石山公亮氏(山形市国際交流協会)	大泉貴広氏(公益財団法人宮城県国際化協会)	土井佳彦氏(特定非営利活動法人多文化リソースセンター東海)	
論点7 日本語教育のボランティアについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>■外国人の状況及びニーズ</li> <li>■指導者等の状況, 対応等</li> <li>■検討事項</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■外国人の状況及びニーズ</li> <li>■指導者等の状況, 対応等</li> <li>○コーディネーターを日本語講師にお願いし, そのほかの人をサポートと位置付け。サポーター間では関わり方に温度差がある。</li> <li>■検討事項</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■外国人の状況及びニーズ</li> <li>○支援者としての外国人当事者の参画も求められる。</li> <li>■指導者等の状況, 対応等</li> <li>○地域のボランティアの実態把握は難しいが, 課題例としては高齢化や人数のばらつき, 運営者不足などが生じている。</li> <li>○ボランティアが担う部分と専門的な人材が担う部分の違いがあるのではないか。</li> <li>■検討事項</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■外国人の状況及びニーズ</li> <li>■指導者等の状況, 対応等</li> <li>○学習者の減少がボランティアや講師の活動機会の減少につながる。</li> <li>○サポーターの登録者数は多いが, 実際には活動できない人も多く, 実働できるボランティア数の把握が課題。</li> <li>○生活講座の講師には元受講者になるケースが多い。</li> <li>■検討事項</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■外国人の状況及びニーズ</li> <li>○元学習者による日本語教室の立ち上げ, 居場所作りの取組が行われている。</li> <li>■指導者等の状況, 対応等</li> <li>○中高年の女性が多く, 世代交代ができていない教室が多い。指導者はときに学習者にとって「姑」「舅」のような存在になり, 地域の先輩として助言, 支援が可能。一方で家族のトラブル等の対応に追われるケースもある。</li> <li>■検討事項</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■外国人の状況及びニーズ</li> <li>■指導者等の状況, 対応等</li> <li>○海外だけでなく, 国内でもコーディネーターやプロの配置ができないのか。自国の言語と文化を責任をもって伝えられる国にすべき。</li> <li>○専門性には相応の対価が必要。</li> <li>■検討事項</li> <li>○ボランティアかプロかではなく, アマチュアかプロかといった分け方で議論を行うべき。</li> </ul>	
論点8 日本語教育に関する調査研究の体制について	<ul style="list-style-type: none"> <li>■外国人の状況及びニーズ</li> <li>○読み書きが困難, 共通言語が少ない, 地域住民との文化的差異が大きい。</li> <li>○日本語を余り使わない生活環境が日本語習得の難しさを助長。</li> <li>○学習意欲は高いが, 不安定な雇用や経済事情により, 移動が頻繁で地域社会に基盤を築きにくく, 日本語学習の継続が困難。</li> <li>■指導者等の状況, 対応等</li> <li>交流の場の創出が不可欠。やさしい日本語による対応が現実的であり, 必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■外国人の状況及びニーズ</li> <li>■指導者等の状況, 対応等</li> <li>○アンケートを実施し, ニーズや学習者の感想を反映している。</li> <li>■検討事項</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■外国人の状況及びニーズ</li> <li>■指導者等の状況, 対応等</li> <li>■検討事項</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■外国人の状況及びニーズ</li> <li>■指導者等の状況, 対応等</li> <li>■検討事項</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■外国人の状況及びニーズ</li> <li>■指導者等の状況, 対応等</li> <li>■検討事項</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■外国人の状況及びニーズ</li> <li>■指導者等の状況, 対応等</li> <li>○外国人が○○しようと思った際に必要となる日本語や知識のリストアップが必要。その際, 短期的な支援と中期的な支援とを分け, 現場のニーズに応える「○○に必要な日本語」等のリストアップが必要。</li> <li>■検討事項</li> </ul>	
論点9 総合的な視点からの検討について	<ul style="list-style-type: none"> <li>■外国人の状況及びニーズ</li> <li>■指導者等の状況, 対応等</li> <li>○多文化共生推進事業の一つとしてほかの事業との連携の下に実施。</li> <li>○市役所内各部署, 各団体との連携による行政情報の提供や日本人との交流を意識した取組等。</li> <li>■検討事項</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■外国人の状況及びニーズ</li> <li>■指導者等の状況, 対応等</li> <li>○外国人相談, 外国人コミュニティの活動支援, 防災訓練への参加, バスツアー, 多文化演劇集団への支援, 多文化人材育成事業等を実施。</li> <li>○福祉, 介護, 看護, サービス業等の分野との連携は不可欠。学習支援は教育委員会や学校との連携が不可欠。</li> <li>■検討事項</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■外国人の状況及びニーズ</li> <li>■指導者等の状況, 対応等</li> <li>■検討事項</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■外国人の状況及びニーズ</li> <li>■指導者等の状況, 対応等</li> <li>■検討事項</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■外国人の状況及びニーズ</li> <li>■指導者等の状況, 対応等</li> <li>○読み聞かせや交流会, 海外出身女性同士または地域に暮らす日本人女性との交流を目指した活動の立ち上げ。就労のための日本語教室の実施。</li> <li>■検討事項</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■外国人の状況及びニーズ</li> <li>■指導者等の状況, 対応等</li> <li>○[仮説] 日本語力が低いほど①学校関係者との意思疎通が困難で子育てに不安, ②就職や転職が困難で, 失業及び要保護に陥りやすい, ③医療・保険・福祉へのアクセス困難, ④防災訓練等への参加率や防災意識が低く, 避難行動・生活に苦慮。</li> <li>■指導者等の状況, 対応等</li> <li>○日本語力, 社会知識等が他分野の問題改善につながる。</li> <li>■検討事項</li> </ul>	
論点10 外国の児童生徒等に...する日本語教育について	<ul style="list-style-type: none"> <li>■外国人の状況及びニーズ</li> <li>■指導者等の状況, 対応等</li> <li>■検討事項</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■外国人の状況及びニーズ</li> <li>○日本語ができないために幼稚園や保育所の入園・入所を断られたり, 発達障害を疑われる場合もある。</li> <li>■指導者等の状況, 対応等</li> <li>○日本語以外に教科学習支援が必要。</li> <li>○来日間もない10代後半の子供には, 地域との交流や自分の将来を考える機会が必要であり, それらを通じた日本語学習への意識付けが重要。</li> <li>○保護者との円滑な関係がないと子供への適切な支援は困難。</li> <li>■検討事項</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■外国人の状況及びニーズ</li> <li>■指導者等の状況, 対応等</li> <li>■検討事項</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■外国人の状況及びニーズ</li> <li>■指導者等の状況, 対応等</li> <li>■検討事項</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■外国人の状況及びニーズ</li> <li>○日本語教室に15~20歳の子が時折来る。高校に編入することもできず, 日本語教室で学ぶことになる。</li> <li>■指導者等の状況, 対応等</li> <li>○ボランティアでの対応は困難である。</li> <li>■検討事項</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■外国人の状況及びニーズ</li> <li>■指導者等の状況, 対応等</li> <li>■検討事項</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■外国人の状況及びニーズ</li> <li>■指導者等の状況, 対応等</li> <li>○公立学校以外の教育機関及び学外における日本語教育等の必要性についても検討が必要ではないか。外国人学校や特別支援学校, 幼稚園・保育所, 院内学級, 少年院, 児童養護施設, 中途退学・学卒者, 非正規滞在者等。</li> <li>■検討事項</li> </ul>
論点11 国外における日本語教育について	<ul style="list-style-type: none"> <li>■外国人の状況及びニーズ</li> <li>■指導者等の状況, 対応等</li> <li>■検討事項</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■外国人の状況及びニーズ</li> <li>■指導者等の状況, 対応等</li> <li>■検討事項</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■外国人の状況及びニーズ</li> <li>■指導者等の状況, 対応等</li> <li>■検討事項</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■外国人の状況及びニーズ</li> <li>■指導者等の状況, 対応等</li> <li>■検討事項</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■外国人の状況及びニーズ</li> <li>■指導者等の状況, 対応等</li> <li>■検討事項</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■外国人の状況及びニーズ</li> <li>■指導者等の状況, 対応等</li> <li>○来日前教育としての日本語教育及び法制度・習慣に関する説明が必要。</li> <li>○海外在留邦人の長期滞在化・永住化による子弟の母語・母文化継承も重要であり, 諸外国との関係に影響大。</li> <li>○来日/出国・帰国の繰り返しを念頭に置いた受入と送出国の教育体制整備が必要。</li> <li>■検討事項</li> </ul>	